

ロシア革命後のモダン・ダンスの波

ーロシア・アヴァンギャルドの振付家 ニコライ・フォレッゲルー

東京外国語大学 村山久美子

ロシアにおける舞踊と言えば、マリウス・ブティパの古典バレエや民族舞踊が有名で、クラシック舞踊を語彙としないモダン・ダンスについてはあまり知られていない。しかし、1917年のロシア革命を経て30年代に入るまでのロシア・アヴァンギャルド全盛時代には、舞踊界でも実験的な振付演出が盛んに行われていたのである。だが、それらの活動は、30年代に入ると全て姿を消すことを余儀なくされた。

20年代には、数々の私立学校や小規模カンパニーが現れたが、その中で最も際立っていたのが、カシヤン・グレイゾフスキー（1892-1970）とニコライ・フォレッゲル（1892-1939）の創作である。

フォレッゲルは、ロシア・ソビエト舞踊の歴史の中ではおそらく唯一、専門の舞踊教育も音楽教育も受けていない振付家である。

1916年にモスクワに出て、新時代の演劇を生んだ演出家の一人、タイーロフのカーメルヌイ劇場に入り、タイーロフの弟子として働いた後、1917年2月、活動の場をペトログラードに移してダンスの創作を開始する。フォレッゲルは、未来の芸術はダンスと映画であると信じていた。

1917年の革命の後、モスクワの自分の住居を使って、自らの作品「四つの仮面の劇場」シリーズを発表し始める。内容は、文学と、中世フランスの宮廷で行われたファルスと、コンメディア・デラルテをベースにしたものだった。1920年にはこの劇場は閉鎖されるが、その後すぐ、フォレッゲルは、若き詩人、戯曲作家、文芸評論家であるウラジーミル・マッスの協力を得、社会の新しいタイプを描く風刺劇場を作って地方を巡り、ソビエト政権に協力するプロパガンダを行う。

フォレッゲルの身体運動の探索が世界的に注目されるようになるのは、1921年に、風刺劇場の生徒達をメンバーとしてカンパニー、マストフォル（MASTFOR）を結成してからである。このカンパニーでは、ロシア・アヴァンギャルド芸術の中心的詩人マヤコフスキーが助言者になり、才能豊かな戯曲作家マッスが台本を書き、衣裳と美術は、後に映画界で巨匠として崇められるようになるエイゼンシュテインとユトケーヴィチが担当した。

マストフォルの活動でフォレッゲルは、機械のような作品精度の高さ、シンプルさを目指した。この理想を実現させるために、彼はダンサーのトレーニング・メソッド「タフィヤトレナーージュ」

を考案した。このメソッドの基本原理は、「ダンサーの身体を、意志によりコントロールできるメカニズムとして使うこと」である。具体的には、400の基本エクササイズがあり、身体の一部のみではなく全体が均一に発達してゆくように考えられ、強度の高い踊りを生み出すために、筋力や跳躍力なども発達させることが考慮されている。

マストフォルの上演作品のジャンルは二つに分けられる。第1が、「シアトリカル・パレード」と呼ばれる、左翼芸術家の活動をもじった作品。新時代にふさわしい新しい芸術を求めてもがいていた当時の左翼芸術家達の様子を映し出しながら、革命劇場の進路を見出そうとしたものである。第2が、「パレード」と呼ばれる西欧のキャバレースタイルのドラマ。ここでは、音楽にジャズが用いられ、同時代人がコンメディア・デラルテの登場人物に重ねられて登場した。最も頻繁に登場した人物の一人はダンカンだった。一個人の身体と魂の完全な表現を目指したダンカンの芸術は、フォレッゲルの芸術とは対極にあるものだったのである。このジャンルの作品の一つ、1922年1月1日発表の「馬との友好関係」は大ヒットとなり、マストフォルを一躍有名にした。

しかし、真の意味でフォレッゲルの才能を世界に認めさせたのは、タフィヤトレナーージュの成果が最も顕著に現れた「メカニック・ダンス」と「機械ダンス」のシリーズである。前者は機械が生きた存在として描かれ、ダンサーが人形のようにブレイク・ダンス風の動きを見せる。後者では、人間の内面を一切見せずに、機械の動きを身体で表現する。柔軟な人間が折り曲げられてのこぎりになったり、タップ・ダンスで汽車のリズムを表現したり等々。これらのシリーズは、「人間のオーガニズムの最も普遍的な動き、ユニバーサルなリズムを表現している」と絶賛された。しかし、マストフォルは、当局寄りの批評家から批判を受けるようになり、24年には原因不明の火災により劇場が焼失し、再開は不許可となる。

フォレッゲルが最後に名を残した作品は、ハリコフのオペラ・バレエ劇場でのフォーキンの作品3作のパロディーだった。ダンカンの影響を受けた身体と魂の表現の融合となった作品「瀕死の白鳥」のパロディー「黒鳥」では、左の翼を折られた鳥が踊り、最後に床に頭を伏せるフォーキン版とは逆に、顔を仰向けにして死んでゆくのである。このパロディーは、活動を断ち切られたフォレッゲルの、社会への抵抗だったのではないのか。

こうして、フォームを追求するフォレッゲルの芸術が闇に葬られ、フォーキンの作品が認められることにより、その後のソ連のバレエ界は、もっぱら意味性を重視するダンスの形態だけが発達することになったのである。